# ネクロム事件

ネクロム事件

ジョンクイラ・ボーズ　著

「つまりはこういうことだ」と、フラクシスは言った。どの彫像にも負けないくらい彫りの深い、毅然とした顔で。「街の西側にある墓地が悪しき存在にとりつかれていて、何年もそのまま放置されているんだ。民はもうそれを受け入れてしまっている。明るいうちに死者の埋葬を終えて、大月神と小月神が夜空に浮かび、邪悪が目覚める前に墓地から離れるようにしている。魔物どもの餌食になるのはよほどの愚か者かよそ者くらいなものだ」

「自然なやり方で厄介払いができていいじゃないの」と、ニトラはけらけらと笑った。背の高い中年の女性で、目は冷たく、唇は薄い。「彼らを救うお金はどこから出るわけ?」

「神殿からだ。墓地の近くの新しい修道院を再開させようとしていて、是が非でも悪霊を浄化したがってる。莫大な報酬がもらえるってことで、依頼を請け負った。私が討伐チームを集め、報酬は分配するという条件つきで。それで君たちを探したわけだ。聞いたところでは、ニトラはモロウウィンド最強の剣士らしいね」

ニトラはむっつりした顔で最高の笑顔をこしらえた。

「それから、オスミックは世に知れた盗賊だ。もっとも、投獄された経験はないらしいが」

頭のはげた青年はどもりながら反論しようとしたが、すぐに笑顔に戻った。「どんな場所でも入れるようにしてやるが、その先はあんたらに任せるよ。こちとら戦いは苦手なんでね」

「ニトラと私の手に負えないことは、マシッサが勇気をもって対処してくれよう」フラクシスはそう言って、討伐隊の4人目のメンバーに向き直った。「とてつもない力と技を秘めた妖術師という触れ込みだから」

マシッサは純粋無垢を絵に書いたような女性で、丸顔に丸い目をしていた。ニトラとオスミックはいぶかしげに彼女を見た。フラクシスが墓地に巣くうモンスターの恐ろしさを説明しているときに、いかにもおびえたような表情を浮かべたのがとくに気になった。彼女が人間の男女以外の敵と戦ったことがないのは明白だった。その場にいる誰もが思った。マシッサが生き残るようなことがあれば、驚くべき番狂わせだと。

夕刻、4人組は重い足取りで墓地に向かう道すがら、新人のマシッサに質問をぶつけてみた。

「吸血鬼はいやらしいモンスターだわ」と、ニトラは言った。「病気をばら撒くの。はるか西方の吸血鬼は苦悩をもたらすだけでなく、無差別に呪いをかけてまわると言うわ。この辺の吸血鬼はそういうことはあまりしないけど、傷を

負わされたら手当てをしないとだめ。メンバーの誰かが咬まれたら、回復の呪文とかそういうので助けてくれるんでしょう?」

「少しは知ってるけど、治療師じゃないから」と、マシッサは控えめに言った。

「魔闘士に近いのか?」と、オスミックが訊いた。

「至近距離でならかすり傷くらいは負わせられるけど、あんまり得意じゃないの。どっちかというと幻惑師なのよ、私」

ニトラとオスミックは不安感もあらわに顔を見合わせた。と、一行は墓地の門に到着した。影が動いていた。がれきだらけのひび割れた小道を縫うように飛びまわる迷える死霊たち。迷路状になっているわけでもなく、どこにでもありそうな荒廃した墓地だったが、ひときわ目立つ特徴がひとつあった。墓碑を見なくても、それが何なのかわかった。シロディール家の無名の役人が安置された第二紀の霊廟が遠くにそびえていた。どこか風変わりな建物だったが、費用のいっさいかからない「腐朽」という様式で作られたダンマーの墓とも釣り合いがとれていた。

「びっくりするほど便利な流派なのよ」マシッサはみずからを弁護するようにささやいた。「あのね、マジカのパワーで、物体の物理的構造を変化させずに認識結果だけをゆがめることが肝要なの。たとえば知覚情報を排除して視力を奪ったりするわけね。聴覚や臭覚も無効にできる。うまく使えば--」

赤毛の女吸血鬼が影から躍り出ると、フラクシスの背中を突き飛ばした。ニトラはとっさに剣を抜き放ったが、マシッサのほうが早かった。彼女が手を振りかざすと、モンスターは動くのをやめてその場で固まった。あごでフラクシスの喉を食いちぎろうとする直前で。フラクシスは剣を抜いて吸血鬼にとどめを刺した。

「幻惑か?」と、オスミックは訊いた。

「ええ」マシッサは微笑んだ。「吸血鬼の動きだけを奪ったのよ、その形態を変えることなく」

四人は小道を乗り越えて霊廟の正門までやってきた。オスミックが鍵をぱちんと外し、毒の罠を解除した。ほこりまみれの廊下を進みながら、マシッサは光の波を照射して影を消し去り、闇の住人をおびき出した。その直後、一対の吸血鬼が襲いかかってきた。吠えたりうなったりしながら血をよこせと訴えていた。

戦いが始まった。最初の2匹の吸血鬼が倒れるやいなや援軍が飛びかかってきた。吸血鬼どもはけた外れの体力と忍耐力の備わった驚異の戦士だったが、マシッサの麻痺の魔法とフラクシスとニトラの剣術でもって、討伐隊は敵をなで斬りにしていった。オスミックでさえ戦いに加わった。

「危険なやつらね」ようやく戦いが終わると、マシッサは息を切らせて言った。

「クァラだ。吸血鬼の血族でもっとも残忍と言われる」と、フラクシスは言った。「最後の一匹までやつらを見つけ出して始末せねばならん」

霊廟の地下深くへと進んでいきながら、討伐隊はさらにモンスターを成敗した。それぞれ見かけは異なったが、力と爪でめったやたらに攻撃してくるという点では通ずるものがあった。隅から隅まで霊廟を捜索して怪物を全滅させると、討伐隊はとうとう地上へ引き返すことにした。あと一時間もすれば夜明けだった。

逆上したような叫びやうなり声はもはや聞こえてこなかった。突撃してくる敵もいなかった。最後の攻撃はこれまでとはまるで違ったため、討伐隊は完ぺきに不意を突かれた。

古代の怪物が墓地の出口付近で待ちかまえていたのだ。そうとも知らずに、討伐隊のメンバーは報酬の分け前の使い道について談笑していた。怪物はもっとも手ごわい相手を慎重に見極めると、マシッサに襲いかかった。フラクシスが門のほうから視線を戻さなかったら、マシッサは叫び声をあげる間もなく八つ裂きにされていただろう。

吸血鬼はマシッサを墓石に向かって突き飛ばした。鉤爪で彼女の背中を引っかいたが、攻撃の手をゆるめて、フラクシスの剣の一撃を受け止めようとした。吸血鬼はきわめて残虐にその思惑を成し遂げた。戦士の腕を肩からもぎとったのだ。オスミックとニトラも加勢したが、負け戦になると直感した。弱っていたマシッサが血を流しながらも岩の山からなんとか立ち上がったまさにそのとき、戦況が変わった。マシッサが魔法の火の玉を吸血鬼めがけて投げつけると、怪物は憤激して彼女に向き直った。ニトラはここがチャンスと見るや、剣を一閃、吸血鬼の首をはね飛ばした。

「少しは攻撃の呪文も使えるのね、話したとおりに」と、ニトラは言った。

「それから少しの回復呪文も」と、マシッサはカなく言った。「けど、フラクシスは助からない」

戦士は土の上で血まみれになって息絶えていた。三人はしんみりと、朝陽に照らされた郊外をネクロムに向かって歩いていった。マシッサは背中で強烈な痛みが増していくのを感じていた。それから、氷漬けにでもされたように全身の感覚が失われていった。

「感染したかどうか、治療師にみてもらわないと」街に到着すると、マシッサは言った。

「明朝、『蚕と炎』で落ち合いましょう」と、ニトラは言った。「私たちはこの足で神殿に行って報酬をもらってくるわ。きっかり三等分しておくわね」

三時間後、オスミックとニトラは宿屋の一室で、嬉しそうに何度も何度も金を数えなおしていた。三等分してもかなりの額になった。

「治療師がマシッサの症状をみて、さじを投げたらどうする?」と、オスミックは夢見心地で言った。「潜伏性の病ってこともありうるからな」

「廊下で音がしなかった?」ニトラはすかさず訊いた。が、外を調べても誰もいなかった。部屋に戻って後ろ手に扉を閉めた。「あれからすぐ治療師のところに向かっていれば、マシッサはきっと助かるわ。けど、私たちは今夜のうちに金を持ち逃げしたっていい」

「われらの哀れな妖術師のために、最後の乾杯といこうか」と、オスミックは言った。ニトラを連れて部屋を出ると、階下に向かった。

ニトラは笑った。「私たちのあとを追おうとしても、幻惑の呪文だけじゃ何にもならないわ。どんなに便利であってもね。麻痺、光、沈黙。どれもこれも、手さぐり状態じゃ役に立たないもの」

彼らは部屋の扉を閉めた。

「透明化も幻惑の呪文のひとつなのよ」と、マシッサは幽体離脱した状態で言った。テーブルの上の金が宙に浮かび、ぱっと消えた。彼女がバッグにしまったのだった。ふたたび扉が開いて閉じると、部屋は静かになった。数分後、オスミックとニトラが戻ってくるまでは。

# ネクロム事件

| | |
|---|---|
| **FormId** | skyrim.esm:01B00F |
| **Owning plugin** | skyrim.esm |
| **Local FormId** | 01B00F |
| **Editor ID** | SkillIllusion1 |
| **Inventory image** | (none) |
| **Menu art** | HighPolyIllusionBook |
| **Value (gold)** | 60 |
| **Type** | Book or tome |
| **Weight** | 1 |
| **Can be taken** | Yes |
| **Teaches** | Skill: 幻惑 |
| **Inventory description** | (none) |
| **Keywords** | VendorItemBook, GiftWizardSpecial |
| **Locations** | 7 |
| **Leveled lists** | 0 |
| **Scripts** | 0 |

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.